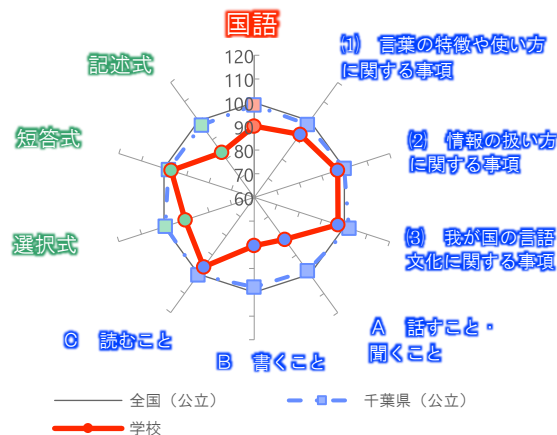


＜教科に関する調査＞

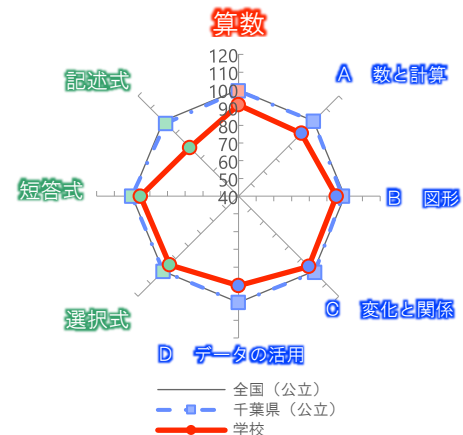
【国語】		設問数	正答率	相対値
全体	国語	14	61	90.1
			67	99.0
学習指導要領の内容	知識及び技能	(1) 言葉の特徴や使いに関する事項	67.7	—
			59.8	92.9
			63.2	98.1
		(2) 情報の扱いに関する事項	64.4	—
			84.3	97.0
			86.8	99.9
	思考力、判断力、表現力等	(3) 我が国の言語文化に関する事項	86.9	—
			72.5	97.2
			76.1	102.0
		A 話すこと・聞くこと	74.6	—
			49.0	81.9
			58.7	98.2
問題形式	選択式	B 書くこと	59.8	—
			54.9	80.3
			66.9	97.8
	短答式	C 読むこと	68.4	—
			68.0	96.2
			71.0	100.4
	記述式		70.7	—
			63.3	90.6
			69.5	99.4
			69.9	—

※教科レーダーチャートは、各区分の全国（公立）の平均正答率を100とした場合の相対値を示したものである。



1 段目：学校 2 段目：千葉県（公立） 3 段目：全国（公立）

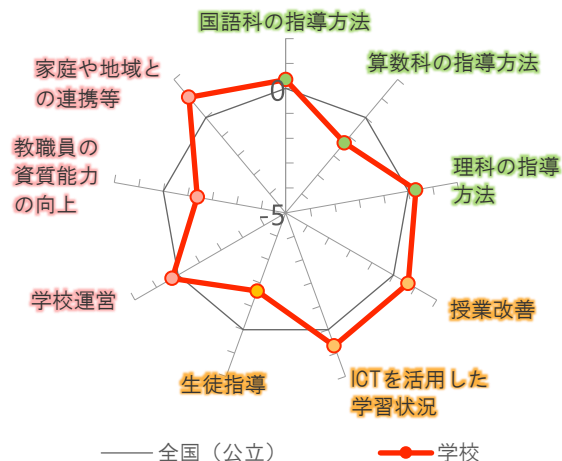
【算数】		設問数	正答率	相対値
全体	算数	16	58	91.5
			63	99.4
学習指導要領の領域	A 数と計算	6	63.4	—
			59.5	90.2
			65.9	99.8
	B 図形	4	66.0	—
			63.2	95.3
			65.5	98.8
	C 測定	0	66.3	—
			—	—
	C 変化と関係	3	49.7	96.1
			52.1	100.8
問題形式	選択式	5	51.7	—
			55.9	90.5
			61.8	100.0
	短答式	7	61.8	—
			59.1	95.3
			62.1	100.2
	記述式	4	62.0	—
			40.2	78.8



＜学校質問調査＞

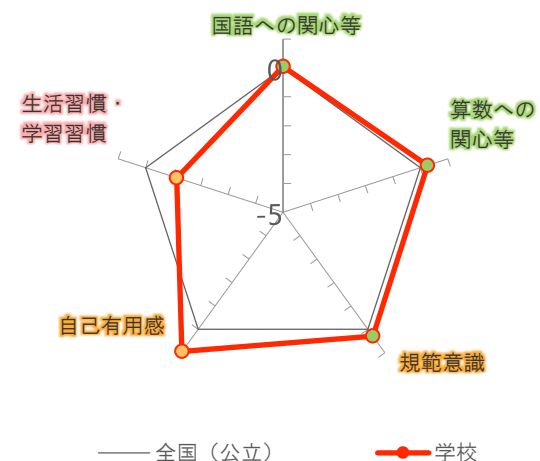
	国語指導	算数指導	理科指導	授業改善	ICT活用	生徒指導	学校運営	資質向上	家庭連携
パラメータ値	2.00	1.75	2.00	2.00	2.00	1.50	2.00	1.67	2.00
スコアZ	0.35	-1.33	0.31	0.68	0.69	-1.65	0.27	-1.39	1.06

※質問紙レーダーチャートは、文部科学省の「『全国学力・学習状況調査結果チャート』の作成方法」に基づき、「調査結果に関する補足説明 全国学力・学習状況調査結果チャートについて」に示された全国平均値及び標準偏差を基に算出した値を示したものである。なお、「教科学力」については、上記＜教科に関する調査＞と重複するため省略してある。



＜児童質問調査＞

	国語関心	算数関心	規範意識	自己有用	生活学習
パラメータ値	3.30	3.39	3.65	3.52	2.94
スコアZ	0.05	0.26	0.29	0.95	-1.13



<教科に関する調査の結果にみられる特徴と現状分析>

国語の調査結果にみられる特徴と現状 全体の平均正答率は昨年度と同様61%となっており、県平均との差も6%とあまり変わらない数値となっている。県平均との差が12%と大きく開いたのが「書くこと」の部分で、書く内容を決める際どのように考えたのか説明を選択したり、取材メモを基に空欄の穴埋めを正しく書いたりすることができない児童が多かった。また、「話すこと・聞くこと」の部分に関しても同様に、目的に応じて内容を検討したり表現を工夫したりするという問題の正答率が低くなっている。これらのことから本校は、「思考力、判断力、表現力等」の領域において読み取りの浅さや、文脈を考えて構成することに課題が見られることが分かった。一方で、「知識及び技能」の面では、それぞれ県平均と大きな差はなかった。しかし、漢字を書く問いでは無解答率が15%となり、漢字の習得不足が伺えた。	算数の調査結果にみられる特徴と現状 全体の平均正答率は昨年度より5%高くなっており、県平均との差も5%に縮めるなど向上が見られた。特に大きく伸びているのは、「B図形」領域で、図形の構成をよく理解していることが分かった。一方で県平均から大きく差が開いたのが「C変化と関係」の領域で、比例の関係や割合の定着に課題がある結果となった。さらに、一番正答率が低かった問題は「AとBのどちらが速いか判断し、そのわけを書く」という問であったことから、答えが出ても、その理由を言葉や数を用いて記述することが難しかったのだと考えられる。これは、国語の特徴にもあったように、記述して説明することに大きな課題が見られるためだと思われる。しかし、正答率が低い問題も無解答が少なく、取り組みもうとした意欲は感じられた。昨年度に比べて思考力の問に対しての数値は大きくよくなったが、まだ思考し、表現することに課題がある。
---	--

<質問調査の結果にみられる特徴と現状分析>

学校質問調査の結果にみられる特徴と現状 学校運営については、本校の教育目標の実現のため、学力向上委員会を設置し、授業の見直し及び改善研究を中心に行っている。教育課程の編成については、佐倉型カリキュラムマネジメントの視点から、子どもと向き合う時間や放課後の時間の確保などを行い、教材研究を今まで以上に行える編成を行った。2年目となる今年度は、昨年度より放課後に教材研究に当てられる時間が増えた。しかし、資質・能力の向上については、個人研修を含め、十分にできていない状況である。研究主任を中心とし、今職員が必要としている研修をピックアップし、年間の研修計画に落とし込むことで、資質・能力の向上が図れると考える。また、若年層に対し、中堅職員等が積極的に関わり、資質の向上を図っていく必要がある。 昨年度から地域人材を活用し、生活科の学習や総合的な学習の時間での関わりを増やしたり、保護者の行事参加を増やしたりしたことで、家庭や地域との連携についての意識が向上している。 生徒指導については、授業規律については年度当初に全職員で共通理解を図っている。また、週に1度生徒指導会議を行い、児童の問題行動について情報交換を行い、学校支援アドバイザーや管理職から指導をしてもらう機会を設けている。しかし、若年層が増えてきたため、十分徹底できていないところもある。 教育相談については、相談員を含め、児童が相談しやすい体制を作っている。	児童質問調査の結果にみられる特徴と現状 本校児童は全国平均と比べ、自己有用感が非常に高いことが分かった。「人の役に立つ人間になりたいか」や「生活の中で幸せな気持ちになるか」「自分にはよいところがあるか」「先生はよいところを認めてくれるか」という質問では9割の児童が前向きに解答している。また、「いじめはどんな理由があってもいけない」という問いには全員がいけないことだと解答している。これらのことから、本校の児童は社会や家庭・学級の一員として居場所を感じ、そこから誰かのために頑張りたいと思う気持ちも育まれていることが分かった。教科に関しての関心も県平均よりもやや高く意欲をもって何事にも挑戦している様子が伺える。しかし、生活習慣や学習習慣についての問いでは、県平均を大きく下回っている。家庭での携帯やゲームとの関わり方、学習時間の確保には課題があることが分かった。
---	---

<改善策・検証方法>

改善目標 ○自らの考えをもって、問題解決に取り組む児童の育成。 ○生活習慣・学習習慣の確立。 ○教員の授業力向上をめざす。	改善方策（どのような取組をいつ・どの程度行うか） ○見いだす・自分で取り組む・広げ深める・まとめあげるという県の「思考し、表現する力」を高める実践モデルプログラムをよりどころとしながら研究を進めていく。今年度は「既習事項を生かし見通しをもった問題解決学習」を中心とした授業形態の工夫を行い指導していく。1学期は指導室訪問でそれぞれの教科ごとに思考力を高める指導の方法を模索していく。また、それらの結果や指導内容も全体で共有する。2学期は、算数に教科を絞り「思考し、表現する力」を育成するための研修を行う。 ○年度初めに「家庭学習の手引き」を配付し、家庭学習のやり方を懇談会の話題として共通理解を図った。また、学習の様子を学校通信として随時配信し、学習進捗の様子など家庭へ周知している。 ○毎月の職員会議では、学力向上委員会として、児童の学力向上に向けての提案を行っていく。 ○教育課程の中に毎日ドリルタイムを15分設定し、思考の基盤となる知識の定着を図る時間とする。	検証方法（いつ・どのように検証・評価するか） ○児童にアンケートを行い、思考することへの意識の変化をみる。また、授業内では「自分で取り組む」「広げ深める」を重視し、一人ひとりが自らの考えを持って学習に参加できるよう支援・評価を行う。 ○ドリルタイムを15分設定し、基礎基本的な技能の習得は思考力向上に不可欠であると考え、反復練習などで技能面を強化していく。その場ですぐに結果を返却し、振り返りを行うことで、個々の苦手部分を把握し改善に努めるようにする。 ○検討も含めると、それぞれが年内に4回「思考力」について考える機会を確保している。実践・検討を多く行うことで、教員の授業力改善や授業の振り返りだけでなく、児童の学力向上につながっていくと考える。 ○家庭学習については、丸つけを家庭にお願いし、個々の苦手な部分や学習進度などを保護者と共通理解し、連携を図っていく。
--	---	---

改善方策の実施結果・評価（改善方策を実施後、検証してどうだったか）

--